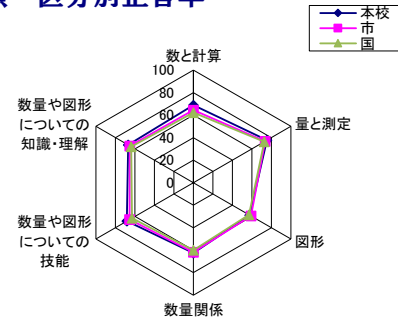


宇都宮市立横川中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

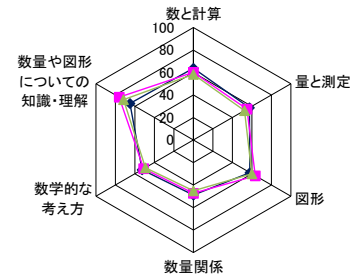
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	68.9	64.5	62.3
	量と測定	75.4	73.6	72.7
	図形	57.7	59.1	56.9
	数量関係	62.5	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	68.3	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	67.0	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	63.8	60.2	58.4
	量と測定	57.5	55.0	52.4
	図形	57.9	63.5	59.9
	数量関係	48.9	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	52.7	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	65.1	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○A領域の平均正答率は68.9%で、全国平均より6.6ポイント高い。 ○B領域の平均正答率は63.8%で、全国平均より5.4ポイント高い。	・全体的に全国平均を上回っているが、今後も引き続き計算のスキルを向上させるため、朝の学習の時間や家庭学習などで、繰り返し練習する機会を作ったり、定着が不十分な児童への個別指導の充実を図ったりする。
量と測定	○A領域の平均正答率は75.4%で、全国平均より2.7ポイント高い。 ○B領域の平均正答率は57.5%で、全国平均より5.1ポイント高い。	・180°よりも大きい角の大きさを捉えるために、2直角・3直角や分度器などを用いて実際に作図をしたり、どのようにして角度を求めたかを考えたり、分度器で測定して本当に正しいかどうかを確かめたりするような数学的活動を充実させる。 ・教室の広さ比べや電車などの交通機関等の混み具合等の体験・経験をもとに全体で考える場を設定することで、異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているとき(面積が同じ場合)には人数が多ければ混んでいるという理解を深められるようにする。 ・異種の二つの量ともにそろっていない場合には、(人数)÷(面積)の商が1㎡あたりの人数を表しているという意味を日々の授業で的確に押さえるとともに、異種の二つの量ともにそろっていない場合には、単位量当たりの大きさを求めれば比較ができることを理解することができるようにする。
図形	○A領域の平均正答率は57.7%で、全国平均より0.8ポイント高い。 ●B領域の平均正答率は57.9%で、全国平均より2.0ポイント低い。	・個別指導や実際に作図・測定するような数学的活動を積極的に取り入れることで、示された表現方法を基に空間の中にあるものの位置を縦・横・高さを使って正確に表すなど、図形に関する基礎的な知識・技能を確実なものにしていく指導を行っていく。 ・円について直径・円周率・円周の長さの3つの言葉の意味を正しく押さえるとともに、それぞれの関係について正しく理解できるようにする。また、円周率の意味の理解を基に、円周の長さが直径の長さに比例することや、直径の長さから円周の長さを求めたり円周の長さから直径の長さを求めたりすることができるようにする。 ・正三角形の1つの角の大きさや正六角形の1つの角の大きさを活用し組み合わせながら、言葉や式を用いて考えを書いたり説明したりするような学習指導を積極的に取り入れることで、一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを言葉や式を用いて正確に記述できるようにする。
数量関係	○A領域の平均正答率は62.5%で、全国平均より2.4ポイント高い。 ○B領域の平均正答率は48.9%で、全国平均より3.8ポイント高い。	・メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈するようにしたり、それらを言葉や数を用いて記述したりするような学習を積極的に取り入れる。 ・式の意味を読み取る力を育むために、友達の式を読み取り自分の言葉で説明するなどの数学的活動などを積極的に取り入れる。 ・百分率を用いた問題に課題が見られたので、理解の定着が不十分な児童に対する個別指導の充実を図るとともに、家庭学習や自主学習などで繰り返し練習し、着実な定着を図ることができるようにする。